

会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	令和5年度第1回高松市こども未来館運営協議会
開催日時	令和6年2月8日(木) 10時～11時30分
開催場所	高松市こども未来館 多目的室
議 題	(1) 令和5年度事業報告について (2) 令和6年度事業計画について (3) その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	—
出席委員	加野委員、寺林委員、山田純子委員、野町委員、真鍋委員、川上委員、梶ヶ谷委員、北岡委員、山田士郎委員、松本委員、堀尾委員
傍 聴 者	1人(定員5人)
担当課及び連絡先	こども未来館 839-2571

会議の経過及び結果

- 1 開会
- 2 部長挨拶
- 3 委員紹介
- 4 事務局紹介
委員総数12名中、委員11名が出席しており、委員総数の半数に達していることから、高松市こども未来館条例施行規則第18条第2項の規定により、会議の成立を確認。
- 5 議題
(1) 令和5年度事業報告について
令和5年度事業内容について、資料に基づき事務局より説明。

主な質疑・意見等
【委員】令和5年12月末時点での施設利用状況は、122千人程度ということだが、こども未来館のどこを訪れた人数を言うのか。また、令和5年度事業内容はこれまでと、どこか変わった点はあるのか。事業内容を何年かで変更する計画があれば教えてほしい。
【事務局】施設利用状況だが、プレイルーム、プラネタリウム、多目的室で行われるイベント、こども未来館学習参加者、団体利用者、科学展示室の来館者数となっている。こども未来館の事業内容については、基本的には、子ども・子育て支援事業をはじめとする3つの事業の中で関係団体と連携し、新しい団体とも関係を築きながら事業を進めている。
【委員】事務局の補足になるが、以前は香川大学博物館と連携した事業を行っていたが、最近博物館が忙しくなってきたりして休止している。代わりに、香川大学の技術職員が科学イベントを行っている。技術職員も活躍の場が広がったと喜んでいと聞く。また、まなびCANとのコラボイベントを予定していたりと、新しい取組みも行っていると思う。

会議の経過及び結果

- 【委員】よいものを残しながら、新しいものを取り入れていただきたい。
- 【委員】たかまつミライエは複合施設で、各階でイベントを開催しているが、知らずに来た人は何をやっているのか分からない。土日を中心に、イベント情報について入口に表示してほしい。また、子育てに悩みを持つ親へのアプローチは何か行っているのか。心配を抱えた親はここへ来るだけで精一杯だったりするので、そういう親への働きかけの事例があれば教えてほしい。
- 【事務局】土日のイベント情報の表示については検討していきたい。親へのアプローチについてだが、専門的な相談等があればそれぞれの内容に応じた部署につないでいるほか、ファミリー・サポート・センターを案内したりもしている。専門員の配置はない。
- 【委員】来館者数が増えているが、近隣の人の利用が多いように思う。遠方から来られる方の割合が分かれば教えてほしい。また、以前行っていた出張事業のように、出向いて行き、活動をすることで、遠方の方にも子ども未来館の周知ができるのではないかと考えるがどうか。
- 【事務局】3階のプレイルーム・みんなの広場の利用状況ではあるが、市内が約9割、市外・県外が約1割となっている。
- コロナ禍の時は子ども未来館学習が開催できず、学校に出向いて行って未来館学習を実施した。平常時には、基本的には実際に来館していただき、遊んで、触れて、学んでほしいと考えている。
- 【委員】中学生や保護者の支援として、保護者が気軽に利用できる仕組みがあればよいと思う。また、子どものキャリアサポートにつながるようなものを検討してほしい。例えば、県内にある企業、業種の情報が得られる情報端末を設置することで、子どもが県内で就職を考える際、役立つのではないかと思う。
- 【委員】小学4年生が未来館学習に訪れている。小学校では、5年生で宿泊学習、6年生で修学旅行に行くが、未来館学習は、最初に集団行動ができる場であり、とても意味がある。高松の子どもたちが高松の良さを知るきっかけにもなるので、引き続き利用していきたい。また、小学校の保護者の中にも子育てが難しいと感じている人が増えている。子育て支援の相談会などを実施してみてもどうか。
- 【委員】SNSを見て利用する人も多いと思う。ただ、ここに来られない人への情報発信についても考えてほしい。館内には色々な施設があり、それぞれの役割があるのでその点も含めて発信してほしい。
- 【委員】館内の職員同士が各施設の業務内容を学んで、利用者に伝えてほしい。
- 【会長】たかまつミライエには色々な施設があり、連携が大事だということで、館内の施設代表者等で構成される館長会を実施している。今後、少しずつ成果が表れることを期待したい。

会議の経過及び結果

(2) 令和6年度事業計画について

事務局より資料に基づき令和6年度事業計画について説明。

主な質疑・意見等

【委員】子供の頃に体験した特別な所での思い出は覚えているものなので、郷土を代表する人、郷土の産業・芸術等を学べる事業を実施されたい。保護者向けのイベントも検討してほしい。市民のニーズを聞いて保護者への門戸を広げてほしい。

【委員】今年も大きな天体ショーが予定されているが、天体観望会を開催する際、そういうものに合わせて行っているのか。

【事務局】大きな天文現象があれば、それに合わせて天体観望会を開催したいと考えている。令和5年度は日時的なことで実施できない時はプラネタリウムで関連する特別投影を実施した。令和6年度も彗星が見られるという情報があるので、それに合わせて天体観望会を企画していきたい。

【委員】科学館、博物館の今後のあり方について相談を受けることがある。直営ですることの利点もあるが、指定管理者制を導入するメリットもある。たかまつミライエにおいて、将来的に指定管理者制度を導入する予定はあるのか。

【事務局】たかまつミライエの整備段階から、将来的な指定管理者制度の導入を踏まえて各種機関と調整を行ってきた。当館は複合施設で子育て支援、教育、市民交流という要素があり、単独の企業、団体に任せるのは難しく、共同企業体を結成する方法でなければ指定管理者制の導入は難しい。企業や団体に呼びかけを行ってきたが現時点では応じてもらえる団体が成立する見込みは低く、直営でやっていくというのが本市の決定となった。

【会長】直営だったものを指定管理者制導入となると、それを嫌がる人もいて、高度な判断が要求されることと思う。来館者が増えていることから、令和6年度の事業計画については、子ども・子育て支援事業、学習体験事業、わくわく体験事業の3つの事業の下で充実を図ってほしい。

(3) その他

市長からの諮問に対する答申については、おおむね妥当であり、また、答申案については、会長決裁に一任することで承認を得た。

6 閉会